

CASE PRESENTATION

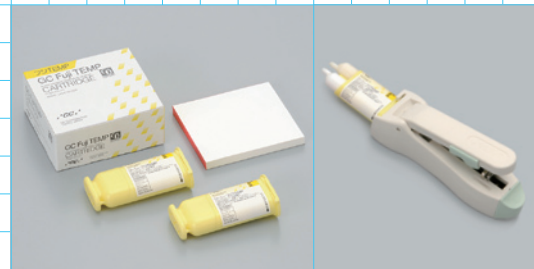
Dentist

Technician

Hygienist

これからの仮着セメント「フジTEMP」の 特徴と臨床応用

—未来型仮着セメント—



原宿デンタルオフィス

歯科医師

歯科医師

山崎長郎

山崎 治

はじめに

近年、審美補綴治療のニーズは高まりつつある。それらを成功に導く最大のキーポイントが「プロビジョナル・レストレーション」であることは周知の事実である。「プロビジョナル・レストレーション」の目的は、歯、歯列組織などの保護、保全および治療の成果を観察し、それを維持させることに集約されるが、補綴治療を長期的に観察するには「長期的に使用できる仮着材」の存在が不可欠である。

また、近年インプラント補綴も増加し、審美・咬合精度に優れているという観点から、アバットメントと上部構造の接合にも仮着材が用いられている。その場合、仮着期間が3ヶ月以上にわたり、仮着材の使用用途は単なる「仮止め」ではなくなってきている。

プロビジョナル・レストレーションやインプラント補綴に仮着材を使用する場合、補綴の範囲・大きさ・目的・期間により仮着材に求められる特性が大きく異なってくる。

ジーシーの仮着材としては、「フリージノールテンポラリーバック」が長年親しまれてきている。非ユージノール系の仮着材であるため、数歯のクラウンなど比較的短期間の使用に適している。

仮着期間が長期間にわたるブリッジやインプラント補綴に使用する場合、仮着材の選択を考慮する必要がある。従来の仮着材は「ユージノール系」「非ユージノール系」「カルボキシレート系」のいずれかとなるが、セメントの被膜厚さが厚く、仮着時に浮き上がりを感じることがあったり、仮着期間が長期にわたるとセメントの破折や変色が見られたり、いづれも満足いく仮着材ではなかった。

この度、ジーシーより発売された「フジTEMP」は従来の仮着材にはない「アイオノマー系」の仮着材で、プロビジョナル・レストレーション、インプラント補綴に最適な設計となっており、私は大変気に入って使用している。「フジTEMP」を使用しているの長所を私なりにまとめてみた(表1)。

そこで今回は、インプラント補綴、プロビジョナル・レストレーションに使用した症例を中心に、「フジTEMP」をよりよく臨床で使用していただくためのポイントを紹介する。

そこで今回は、インプラント補綴、プロビジョナル・レストレーションに使用した症例を中心に、「フジTEMP」をよりよく臨床で使用していただくためのポイントを紹介する。

表1 「フジTEMP」の長所

①操作性がよい

粉液タイプのような計量の煩わしさが無い。またペースト&ペーストで練和しやすい。

②セメントの被膜厚さが薄い

「フジTEMP」の被膜厚さは「6 μ m」で、今までの仮着材にはない極薄の被膜であり、臨床でその薄さは十分に感じられる。特にインプラント補綴に使用する場合、セメントの被膜が薄いことは重要なポイントである。

③色調変化が経時的にない

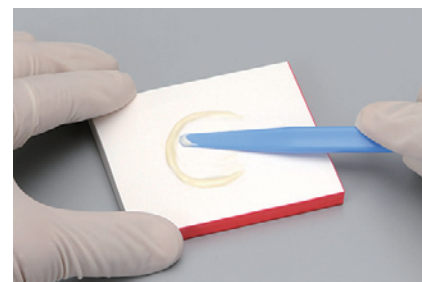
④溶解性が低く長期的に使用可能

アイオノマー系の仮着材であるため、使用が長期間にわたっても、変色・溶解することなく、良好である。

⑤歯髄疼痛が起きにくい



図A CDカートリッジ採用で粉液タイプのような計量の煩わしさが無い。



図B ペースト&ペーストで練和も楽である。

製品名	被膜厚さ
フジTEMP	6 μ m
フリージノール テンポラリーバック	10 μ m

ジーシー研究所測定
JIS T 6610による

図C 被膜厚さのデータ。「フジTEMP」は粒径の細かいフィラーを使用することで、被膜厚さ「6 μ m」を実現している。

症例1 インプラント上部構造の仮着



1-1 67。インプラントアバットメント。



1-2 インプラント上部構造(メタルセラミックス)。



1-3 口腔内へ試適する。



1-4 インプラントの最終補綴物の仮着に「フジTEMP」を使用する場合でアバットメント長が3.5mm以上に設定する場合は、アバットメントにワセリンを塗布することをお勧めする。



1-5 インプラント最終補綴物に使用する場合はメンテナンス時の撤去も考慮して、セメントの量をコントロールする。

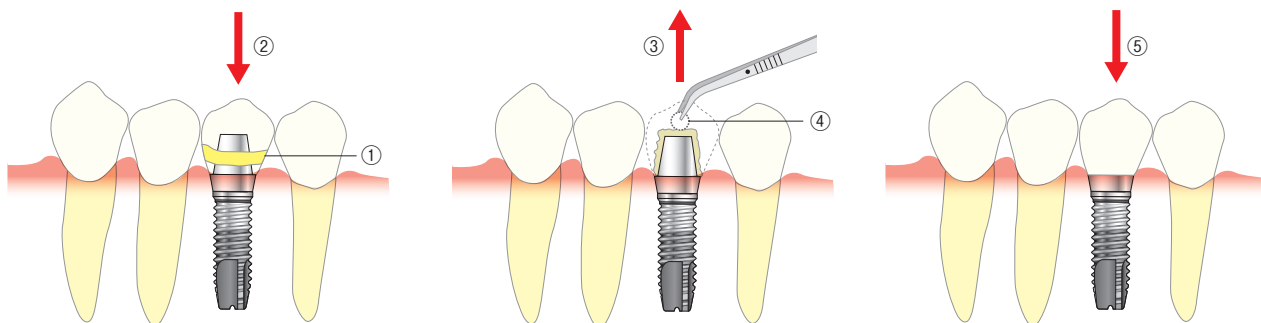


1-6 帯状にセメントを塗布。



1-7 (一度装着した後に補綴物を外し、アバットメントの天頂部に付着したセメントを綿球などで拭い)口腔内にセット。詳細は「ワンポイントアドバイス①」を参照。

ワンポイントアドバイス① (インプラント上部構造の仮着)



1-8 セメントはマージンの内側に帯状に塗布し(①)、一度装着する(②)。一旦補綴物を外し(③)、アバットメントの天頂部に付着したセメントを綿球等で拭った後(④)、再度装着(⑤)。



1-9 口腔内セット後、約1分後にインスツルメントで余剰セメントを除去。余剰セメントはセット直後であれば、水で洗い流すことも可能である。



1-10 フロスで歯間部の余剰セメントを除去。



1-11 仮着後。

症例2 プロビジョナル・レストレーションの仮着



2-1 支台歯形成後。



2-2 プロビジョナル・レストレーション。



2-3 「フジTEMP」をマージンの内側に帯状に塗布。



2-4 プロビジョナル・レストレーションをセット。



2-5 余剰セメントを除去。「フジTEMP」は一塊で除去できてよい。



2-6 プロビジョナルの撤去。アイオノマー系の仮着材であるが、撤去時は従来の仮着材と同様に撤去できる。ただし、支台歯長が長い場合や支台のテーパーが急角度の場合には支台歯にワセリンを塗布することをお勧めする。



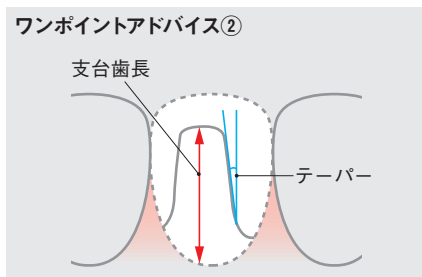
2-7 プロビジョナル撤去直後の支台歯の写真。アイオノマー系であるため、仮着期間が長期間になってもセメントの溶解もなく、仮着力が安定している。



2-8 支台歯に付着している「フジTEMP」を清掃。超音波スケーラーを使用して清掃。



2-9 最終補綴物(メタルセラミックス)をセット。



2-10 下記の条件の場合は、仮着前に支台歯またはアバットメントにワセリンを塗布することをお勧めする。

- ・適合性の良い最終補綴物、
 - ・インプラント上部構造の場合、
- さらに、下記の条件が加わる場合には、特に注意する。
- ・支台歯長(アバットメント長)が長い、
 - ・テーパーが急角度の場合、
- は特に注意する。



2-11 ジーシーの「リムーバブルプライヤー K.Y.型」は、テンポラリークラウンの撤去がスムーズに行え、私の臨床で大変重宝している。

おわりに

1995年ごろから私の審美補綴・インプラント補綴への飽くなき追及が始まった。まずはマテリアルの準備をし、そのマテリアルの特性を最大限生かすための使用方法の研究をした。近年、審美補綴のマーケットに対応している製品は次々に開発・発売されてい

るが、マテリアルの特性を最大限に生かすための研究は現在も進行中である。

今回の「フジTEMP」は通常の短期間の仮着に使用できるのはもちろん、仮着期間が長期にわたるプロビジョナル・レストレーション、インプラント補綴の仮着に、今まで

感じていたようなストレスがなく使用でき、まさに審美補綴に対応している製品といえるであろう。

このケースプレゼンテーションでまとめたポイントを、ぜひ「フジTEMP」の特性を生かすための参考としていただきたい。